



ZOOサロンと科学する少年たち

今年も恒例「かみねおもしろZOOサロン」が賑々しく開催されました。今年のタイトルは茨城大学の「目からウロ講座@動物園」。今年度は茨城大学さんと5つのテーマで当園との共同研究が進められています。せっかく地元にある大学と動物園、研究材料はゴロゴロ転がってるんじゃないかと、始められたものです。一例をあげると、かみね動物園の主演級の動物である2頭のメスのアジアゾウの敵対状況の分析と改善策や、クロサイにたかるサシバエによるストレス評価と防除策、来園者向けスマホアプリの開発など飼育現場やお客様にも研究成果がダイレクトに還元できるような内容となっています。



«豊田先生・・・遠景（失礼）»

そんなお付き合いから、そうだ今年のZOOサロンは動物を主に扱う農学部の先生方をお願いしよう、となったわけであります。講師は3人の先生方からそれぞれの専門分野での最新の知見を披露してもらうことに。動物飼料が専門の豊田准教授からはうつ病モデルマウスを切り口に「こころと栄養」。可哀そうですがわざわざうつになるマウスをつくり、与える飼料でうつ行動がどの程度制御されるかといった内容。農業機械が専門の岡山准教授からは「三次元カメラで動物を見てみよう」。動物同士の攻撃や交尾などの行動を立体視することで、通常のカメラでは捕えられない動きを細かく観察できる優れたテクノロジーが紹介されました。共同研究で最初にお話を頂いた動物行動学が専門の小針准教授からは「動物の幸せを科学的に考える」。当園でもエンリッチメントには気を配りながら飼育していますが、まさにアニマルウェルフェアという飼育下動物の動物福祉にたった視点での考察でした。



«岡山先生»

テーマはそれぞれ違いますが、常日頃、動物たちに健康でストレスなく暮らしてもらうことに腐心している動物園にとってはすべてが関心ある話題となりました。またお客様にとっても、動物もうつ病になる、などという話題になると身を乗り出すように聞いている方もいらっしゃるようで関心の高さを伺うことができました。特に、中学生くらいのお子さんがかなり突っ込んだ質問をしていて、あとから先生方と話したときも、きっと彼は動物関係の科学者になるんじゃないかと話題になったほどでした。



《小針先生》

突然ですが、私も今この仕事になって9年目なのですが、動物に関してわからないことがたくさんあります。園長への手紙でも素朴な疑問がたくさん出されます。今日はこんなのがありました。「ライオンの戦闘能力は人間の何倍ぐらいですか」この少年は、ライオンが獲物を仕留め、強いことをよく知っています。しかしその強さがどれぐらいなのかは実感としてわからない。だから私たち人間と比べるわけです。これはまさに科学の原点です。私からは「いい質問だけど、難しい質問だね。人間には鋭い牙や爪がないから簡単には比べられないけど、ライオンはシマウマを運が良ければ一発で仕留められる。では、武器を持たない素手の人間は何人いけばシマウマを仕留められるかな？」で返事は終わりにしてあります。きっと答えは出ないかもしれませんが、もちろん私にもわかりません（何人いても全速力で逃げられたらオシマイのような気がします。でも武井壮なら一人で倒せるかな？）。でも考えることが大切です。ZOOサロンは一応大人の方を対象にしていますが、子供向けのZOOカフェやワークショップなどのプログラムも用意しています。



素朴な疑問から、動物へ理解と関心をもってもらえるような取り組みをこれからも続けていきたいと思っています。